

# 大学院説明会 修了者インタビュー

**山川 尚子さん**

2019年3月

博士課程前期課程修了

パナソニック株式会社勤務

(パナソニック IP マネジメント株式会社ライセンス部戦略企画課へ出向)

## 【現在の仕事について】

私は GMAP (Global Master's Program) in Law コースを修了後、パナソニック株式会社へ入社し、知的財産権に関する法務の仕事をしています。

現在所属しているライセンス部では、契約書を英語で作成したり、外国企業と英語で交渉したり、外国人の駐在弁護士と英語で会話したりと、英語を使って法律業務に取り組む機会が多々あります。毎週のように海外出張に行く先輩もたくさんいます。

正直なところ、入社前は、これほど業務で英語を使う機会があるとは思っていませんでした。(パナソニックは大阪に本社を置く日本企業ではありますが、私が就職活動時に予測していた、いわゆる外資系企業・商社のレベル、頻度で英語を使っています。)

## 【GMAP で学んだことで役に立っていること】

GMAP in Law コースで培った経験・スキルは、今の仕事に非常に役立っています。知的財産法の授業はなかったものの、法律英語の授業で学んだ、英米法体系の「契約法」、「訴訟、仲裁などの紛争解決手段」の知識は、まさに今の仕事に直結しています。米国判例を読んだり、英語でビジネスメールを書く練習をしたり、交渉のロールプレイングをしたりして身につけた「国際ビジネスにおける法務スキル」も役に立っています。

また、GMAP で2年間、修士論文、授業のレポート等を英語で書くことによって、法律英語の読み書きに慣れていなければ、英語の契約書を読むにも、作成するにも、もっと苦労していただろうと思います。

社会人になると自己啓発に使える体力、時間がなかなか確保できないので、国際ビジネス法・法律英語の素地を GMAP で身につけておいて良かったと痛感しています。

GMAP in Law コースでの2年間がなかったら、英語での法律業務に、抵抗なく楽しんで取り組むことはできていなかったと思います。

## 【企業法務に就きたいと思い、この HP をご覧になっている方へ】

(僭越ながら) アドバイスを申し上げると、文系の大学院卒、かつ、法務に絞った就職活動はとても大変です。就職が比較的容易といわれている中、私の周りでは、泣く泣く就職活動の再チャレンジのために留年する人や、法務以外の職種に就職する人がほとんどでした。そもそも、法務職種を確約してくれる企業が少なく、「数年間は他の職種を経験した後に、(枠が空いていて、タイミングが合えば、) 法務に異動できるかもしれ

ない」と言う企業がほとんどです。少ない枠を勝ち取るためには、他の学生にはないアピールポイントを持っている必要があります。その点、GMAP in Law コースでは、普通の大学院では経験できないことを、たくさん経験することができます。例えば、私は海外インターンシップとしてポーランドへ行き、コペルニクス大学で講師として日本語・日本文化の授業をしました。この「海外での就労経験」があるおかげで、「臨機応変な対応力」、「度胸」が付きました。

また、GMAP in Law コースの授業は、世界各国から招聘された外国人の先生により行われるため、「グローバル視野で考える力」が身につくだけでなく、ディスカッションで多々自分の意見が求められることから、何事においても「自分なりの考えを持つ」ようになりました。

外国人のクラスメイトとの日常的な会話を通して必然的に「英語でのコミュニケーション能力」も身につきました。（私の入学した当初は他に日本人がおらず、クラスメイトは皆外国人だったので、日本にいながら留学しているような環境でした。）

GMAP in Law コースは、本当に力が付きます。今私がやりたい仕事に就けているのは、GMAP in Law コースに入学したからです。実は学部卒業直前まで、ロースクールに進学するか、GMAP in Law コースに進学するか、迷っていました。当時 GMAP in Law コースはできたばかりで、修了後の先輩の進路も参考にできない状態だったため、周りからは反対もされましたが、企業法務に弁護士資格は必須ではないし、むしろグローバル企業のビジネスには英語力が必須なので、今では GMAP in Law コースを選んでよかったと、心から思っています。

ビジネス界でグローバルに活躍したい方は、ぜひ GMAP in Law コースに入学を！

### **密谷 ゆうみさん**

2018年3月

博士課程前期課程修了

大阪府庁勤務

#### **【法学研究科を選んだ理由】**

市民の政治参加について、より深く研究したいと考え大学院進学を決意しました。本学では、特に政治学方法論の授業が豊富に行われており、学部生時代から関心を持っていた統計学的アプローチについて最先端の学びを得られると考えました。そのため、別の大学で学部生時代を過ごしましたが、神戸大学の法学研究科を選びました。

#### **【在学中の研究内容】**

社会運動等を含む非制度的な政治活動への参加について、国際比較調査データを用いて分析を行いました。様々な非制度的な政治活動について個別に分析を行うことで、各政

治活動への参加を規定する要因や、市民がそれらの活動に参加する目的を考察しました。

#### 【本学の良さ】

授業の質が高いことはさることながら、授業以外でも、最先端の研究について理解を深められる勉強会や研究会、研究相談のできるランチゼミ等が盛んに行われていることは、とても大きな魅力だと思います。また、指導して下さる先生方や先輩との距離が近く、研究の相談等も行いやすい雰囲気がありました。

#### 【現在のキャリア】

2018年4月に大阪府庁に入庁しました。本学の研究生活の中で培われた、粘り強く課題に向き合い多角的に物事を検討する姿勢は日々の業務で活かされています。

#### 大崎 香織 さん

2014年3月

博士課程前期課程修了

防衛省陸上幕僚幹部 法務官付

#### 【法学研究科を選んだ理由】

様々な要素はありますが、主として、①社会人の入学を受け入れていること、②国際法分野での研究・実務実績が豊富な教授陣がそろっていること、③日本で屈指の蔵書を誇る図書館等の充実した研究施設を擁していること、があげられます。

#### 【在学中の研究内容】

法学研究科および法学部の講義等を履修しながら、修士論文の研究を行いました。自らの職務に必要な研究、特に①PKOにおける文民保護に関する法的考察、②人権法と人道法の関係、③国家責任について重視して研究を行いました。

#### 【本学の良さ】

六甲山の豊富な自然に囲まれ、静かで最適な学習環境が確保されている一方で、学会やシンポジウム等が多く開催されます。また、神戸や大阪中心部へのアクセスも良く、不便を感じたことはありません。なお、本学を選んだ理由でも述べましたが、私の主たる研究分野である国際法について実績豊富な教授陣がそろっていること、また、少人数制のゼミなのできめ細かな修学サポートが受けられることは大きなメリットだと感じました。特に、仕事をしながら修学する社会人にとっては大変ありがたいものでした。

#### 【現在のキャリア】

防衛省陸上幕僚監部において、2等陸佐として自衛隊の活動にかかわる法令等について研究するとともに、陸上自衛隊内の関係部署に対する法律支援を企画・調整しています。

**藤田 増夫 さん**

2014年3月

博士課程前期課程修了

弁護士

弁護士登録11年目を迎え、より高度な専門知識を得たいと考え、実定法分野においても定評のある本研究科に進学しました。

修士論文の研究テーマは「支配会社の従属会社債権者に対する責任」でしたが、専攻科目に限らず、幅広く受講しました。講義は、少人数のゼミ形式が多く、高度な議論となることもありましたが、どの先生も親切できめ細やかに指導してくださいました。また、様々な経歴を持つ学生が集まっているが故に、多角的な視点から有益な議論がなされ、刺激を受けることも多かったです。おかげで、社会人として仕事を続けながらも、多くの専門知識を習得しただけでなく、とても楽しく充実した学生生活を過ごすことができました。

現在は弁護士業に集中していますが、本研究科での経験が活きていると実感することも少なくありません。今後も、これまでの研究を深めるとともに、本研究科における貴重な経験を糧に、より一層社会に貢献していきたいと考えています。

**高島 曜介 さん**

2013年3月

博士課程前期課程修了

朝日新聞社勤務

**【法学研究科を選んだ理由】**

神戸大学法学部に在学中、「なぜ内戦が起きるのか」について理論と実証の両面から追究しようと思い、進学を決めました。法学研究科を選んだのは、指導教授と緻密な研究相談ができ、また、専門分野を問わず、第一線で活躍されている先生方からご指導いただける環境に魅力を感じたからです。

**【在学中の研究内容】**

「内戦勃発のメカニズム」について研究しました。ゲーム理論を用いた分析では、民族間のコミットメント問題を解消する「外部アクターの予防関与モデル」を構築して仮説を導出し、クロアチアとマケドニアの比較事例分析を通じて実証分析を行いました。

### 【本学の良さ】

研究分野の垣根を越えた刺激的な環境で研究できるところです。定性的分析、定量的分析、数理モデル分析などについて、スペシャリストの先生方からご指導をいただくことができました。研究科の学生とも自発的に企画した勉強会で議論を重ね、他分野の研究に関心を持ち、様々な角度から問題の原因を追究する姿勢を養うことができました。これらは、現在の仕事にも生きていますと実感しています。

### 【現在のキャリア】

朝日新聞社に記者として入社し、大津総局、福山支局を経て、平成 27 年 5 月、現在の広島総局に異動。警察と司法の担当をしています。

### 床島 遼 さん

2013 年 3 月

博士課程前期課程修了

丸紅株式会社アビジャン出張所勤務

### 【法学研究科を選んだ理由】

学部生時代よりアメリカの政治学に興味がありました。芽生えた学習意欲を学部生で終わらせず、大学院で専門知識を修めた上で論文として昇華したいと考えました。中でもこの大学院は特に日米関係の歴史研究において確固たる伝統を持っており、自身の研究を深めるには最適と考え進学しました。

### 【在学中の研究内容】

アメリカにおける黒人の権利回復運動と、それに対する FBI の情報活動につき分析しました。特に 1960 年代末～70 年代初頭の黒人運動最大の過激派組織・ブラックパンサー党に対する FBI の情報活動と、その権力を持つに至る政治過程につき考察しました。

### 【本学の良さ】

学生と教授の近さだと思います。法学研究科には一線の教授が揃っており、かつ学生数はそれほど多くないため、いつでも教授から親身な指導を受けることが出来ます。学生間においてもそれは同じで、高い志を持った仲間との研究室での日々は今でも本当に大切な思い出です。

### 【現在のキャリア】

丸紅株式会社に入社、ロシア・CIS 圏に関わる業務を行いました。その後、仏語を修めるためフランスに 1 年間赴任しました。今年からは西アフリカの国に赴任し、当地の仏

語圏諸国についての業務をしています。

**久保田 泉さん**

2004年3月

博士課程前期課程修了

防衛省勤務

**【法学研究科を選んだ理由】**

他大学の学部生時代に外交・安全保障の分野に興味を持ち大学院進学を考えていた折、本研究科にはこの分野において一流の教授陣が揃っており、高水準の教育が受けられることを知り、選択しました。

**【在学中の研究内容】**

台湾の民主化が、中国大陸との統一と独立をめぐる論争の中でどのように実現したかについて、民主化理論を用いながら分析しました。

**【本学の良さ】**

高水準かつ多様な授業やゼミがあり、現場の実情に詳しい社会人学生も多いため、非常に知的好奇心を刺激されました。また六甲山の麓の自然に囲まれたアットホームな雰囲気の中で、落ち着いて学業に取り組みました。

**【現在のキャリア】**

研究科修了後、神戸市役所に勤務した後、2006年に防衛庁（当時）に入庁しました。在学中に勉強したことを活かして政治・外交・安全保障分野の情勢分析等に携わることができ、充実した毎日を送っています。また職場から博士課程に派遣していただくことができ、2017年に博士号を取得しました。

**若枝 一憲 さん**

2003年3月

博士課程前期課程修了

外務省勤務

**【法学研究科を選んだ理由】**

国内屈指の政治外交史分野の教授陣と、院生の関心や目標に応じて柔軟にカリキュラム

を組める専修コースは、外務省で働くことを当時漠然と考えていた自分にとって大変魅力的でした。六甲台キャンパスの正面階段を上った場所から一望する神戸の景色にも心掴まれました。

#### 【在学中の研究内容】

日米同盟を軸とする戦後日本との比較で、米国との対立の道を選んだキューバに関心を持ち、キューバ革命を修士論文の題材としました。ゼミや講義を通して政治外交史や国際法・刑法など法学の知識を積んだことは現在の業務でも基盤となっています。

#### 【本学の良さ】

六甲山麓の新鮮な空気のもと、落ち着いて研究できる環境は神戸大学の良さだと思います。20代にそうした時間を過ごせたことは自分の財産です。現在、社会人として働きながら後期課程に入学しました。若い学生と社会人学生と一緒に学べるオープンな空気も法学研究科の良さの一つだと思います。

#### 【現在のキャリア】

外務省総合外交政策局で、国際組織犯罪・テロ対策を所掌する部署で働いています。国連など各種国際会議に出席するマルチ外交に携わっています。

### 日野 一成 さん

2015年3月

博士課程後期課程修了

鹿児島国際大学経済学部経済学科・大学院経済学研究科准教授

#### 【法学研究科を選んだ理由】

損害保険会社に勤務時代は、交通事故の賠償保険実務を中心に業務遂行しておりましたが、同実務上、自賠責保険の支払基準について、被害者保護に反する裁判所の取り扱いに対し、疑問を持っていました。同保険会社を早期退職し、保険調査会社の役員に就任したことを機に、52歳で、不法行為法の第一人者の先生に師事し、同問題を研究したく、本学の博士課程前期課程（社会人コース）に入学させて頂き、後期課程（高度専門職業人コース）修了までお世話になりました。

#### 【在学中の研究内容】

在学中は、自賠責支払基準の問題に限らず、被害者保護に悖る問題を中心に研究しました。損害保険業界の専門誌「損害保険研究」に5本の論文を投稿しましたが、在学中は

そのうち4本でした。博士論文は、「自賠法における被害者保護法制上の諸問題」として、7つの問題に対し、「自動車事故被害者救済法」という観点から考察を行いました。

#### 【本学の良さ】

法学分野において、国内第一線の研究者を多数擁し、とりわけ、不法行為法に関し、日本を代表する先生に指導を受けることができたことです。もともと前期課程修了を目標にしていたのですが、さらに後期課程に進学・修了できたことは。法学研究科の素晴らしい研究環境に加え、学生に研究意欲を高める指導教員の能力の高さのお陰と思い大変感謝しております。

#### 【現在のキャリア】

2018年3月に前職を退職し、同年4月より鹿児島国際大学経済学部の准教授に60歳で採用されました。大学では、法学、保険論、リスクマネジメント論、大学院では保険経済学を教えています。研究は引き続き、自賠法や保険論（モラルリスク）を中心に行っておりますが、大学紀要を発表の場とし、現在まで論文を7本連続投稿しております。

#### **松田 貴文 さん**

2014年3月

博士課程後期課程修了

名古屋大学大学院法学研究科准教授

私は2008年に神戸大学大学院博士後期課程に進学しました。研究の道に入ったきっかけは神戸大学の学部時代に履修したゼミです。法律が社会問題を規律するという実践的な側面と、なぜ人々に強制力を及ぼすことができるのかという理論的な側面の双方を持っていること、特に契約法では自由とその制約という二つの逆方向の要請が正面から問題として扱われ、さまざまなアイデアに基づくダイナミックな議論が繰り広げられていることに興味を持ちました。今となっては思い出すのも恥ずかしいくらいですが、民法で新しく展開されていた基礎理論に基づいて、刑法のゼミでも我流の解釈論を展開していたように記憶しています。このまま民法について考え続けたいと思っていたので、神戸大学大学院への進学を希望していました。

法学研究科では、まずは外国語を学習し、そのあとは経済学を勉強し始めました。経済学の知見を用いて法律を見てみると、これまで学習してきたものが全く違う姿に見えて、まさに目から鱗が何度も落ちる驚きと刺激に満ちた日々でした。神戸大学は法学部と経済学部の垣根が低く、研究レベルで密接な交流が行われているので、これからそうした方向で研究をしてみたいという方には非常によい環境だと思います。実際に、研究の合間に経済学部の講義を受けに行ったり、先生に質問に行ったりしていました。



いま振り返ると、大学院の時代は時間に恵まれている期間です。そのような時期には、じっくりと時間をかけて、ひとつの問題について突き詰めて考える環境が必要だと思います。神戸大学はその意味でもとても良い環境でした。頭をリフレッシュさせたいときには、少し外に出れば静かな自然があり、歴史ある建物の雰囲気も心を落ち着かせてくれます。山に登ったご褒美として、見晴らしのよい景色もあります。

博士課程では論文を書きます。それは当然自分自身の考えを示すものですが、ひとりでは考えをなかなか進めることができません。これまでどのように考えられてきたのか、考えを進めるためにはどのような作法があるのかなど、神戸大学の先生方は、後進の育成という使命感と、おそらくご自身の関心という原動力をもって、熱心かつ丁寧にご指導くださいます。

私自身は、現在大学教員として研究、教育に従事しています。研究に関しては、神戸大学の大学院で学んだことが自分の基礎となっていることを本当に実感します。大学院のときに何をどのように学んだかが、研究者としての私をまさに形作っているように思います。また教育に関しても、提供する側に回ってみて、いかに自分が受けていた教育が高レベルで充実したものであったかを改めて実感しています。

**古川 朋雄 さん**

2009年9月

博士課程後期課程単位修得退学

大阪府立大学現代システム科学域マネジメント学類准教授

#### 【在学中の研究内容】

グループ企業における取締役の責任のあり方とその追及手段に関する研究を行いました。特にアメリカの判例や学説の検討を通じて、グループ企業特有の問題点と日本における対応策を検討しました。大学院での研究は現在の研究生生活の基盤となっています。

#### 【本学の良さ】

各分野の第一線で活躍される先生方から、丁寧かつ熱心なご指導を受けることができます。また授業などを通じて留学生や社会人院生と交流することにより、自分の視野を広げることができます。神戸大学は研究に必要な資料も豊富に揃っており、高い水準の研究環境が確保されています。

#### 【現在のキャリア】

2009年10月より、大阪府立大学現代システム科学域マネジメント学類で、会社法や金融商品取引法などを教えています。

**齋藤 嘉臣 さん**

2005 年 3 月

博士課程後期課程修了

京都大学大学院人間・環境学研究科准教授

**【法学研究科を選んだ理由】**

学部時代から神戸大学法学部で学んでいました。演習で研究し始めた安全保障論に関心を持ち進学を決めたのですが、その際に国際政治学や外交史分野において突出した資源を持つ本学の研究環境が魅力的で、法学研究科を選びました。

**【在学中の研究内容】**

冷戦変容期とされる 1960 年代から 1970 年代の国際政治を、イギリス外交を軸に研究しました。博士論文では、冷戦を東西対立の視座のみから捉える視角を批判し、同盟政治やヨーロッパ統合との連関を意識しながら、イギリス外交の果たした役割を考察しました。

**【本学の良さ】**

国際政治学の分野に限定しても第一線で活躍するスタッフを多数擁し、さらに外交史や政治史、国際法といった隣接諸分野でも日本を代表するスタッフから指導を受けることのできる法学研究科は、きわめて恵まれた研究環境を有しています。議論を通して切磋琢磨しあえる多くの刺激的な研究仲間の存在も、貴重です。

**【現在のキャリア】**

京都大学大学院法学研究科 21 世紀 COE 研究員、日本学術振興会特別研究員、金沢大学人間社会研究域法学系准教授を経て、京都大学大学院人間・環境学研究科准教授。現在は国際政治学、外交史、比較政治学等を教えています。